

第59回 神奈川県高等学校定通制軟式野球選手権大会(全国大会県予選)

取られたら取り返す橘定野球部伝統のねばりの野球で

6月19日(日)12時30分~
等々力硬式野球場

日々輝学園高校神奈川
VS
橘高校

6大会連続

全員野球でつかんだ勝利

目標まであと一つ??

夕手スポ

橘高等学校定時制
運動部通信
2022.6.16
第107号

6月11日(土)川崎市宮前区球場
準決勝戦 第1試合
クラーク 3100000 4
橘定 301002x 6



Photo: 澤村亜蓮 (4A・生徒会長)

クラーク記念国際高校横浜との準決勝戦は、初回、クラーク横浜の機動力を活かした攻撃に3点を先制される厳しい戦いとなった。三浦翼がエースとして戦い始めた二年前の秋から県大会で先制される経験のない部員にとつて、これまでとは異なる立ち上がりとなった。しかし、数多くの練習試合で実践経験を積んできている中で様々な展開を経験してきた。大型連休に組んだ5連戦では、相手が社会人とはいえず、先制され、追加点を与え、毎試合、追う立場での戦いを経験した。5連敗と力不足を感じる中で、二死からでもチャンスをつくれれば点は取れる、ねばることでも点を縮めることができるということも経験してきていた。

主将の三浦翔は、「初回に3点取られても負ける気はしなかった」と言う。「取りかえせる!」「もつと楽しめ!」と声をあげる主将の声にチームは奮起する。先頭打者の矢部和真が二塁への気迫のヘッドスライディングで出塁すると、続く主将がフルカウントまでねばり、タイムリーヒットで矢部をホームにかえす。さらに三番の松岡幸騎広のタイムリー2ベースヒット、四番三浦翼の内野への一打で同点に追いつく。取られたら取り返す橘定野球で振り出しに戻し、流れを渡さない。しかし、二回の表、徹底したミート打法と走力で再び1点のリードをゆるす。続くピンチを、サード吉田侑生の好守備と三浦翼のねばりの投球で最少失点に抑え、三回は三者連続三振に打ち取る。その裏、この回先頭打者の三浦翔の痛烈な一打はセンターのフェンスを直撃する3ベースヒット。このチャンスに、三浦翼の一打でついに同点のホームを踏む。

三回以降、エース三浦翼に本来の投球がもどり、クラーク打線に出塁を許さない。走者を出しても、絶妙な牽制で刺し、チャンスの芽を



バントエンドランを決めて
チャンスを
広げる
小林愛里
(2年)



要所を押さえる
ねばりの1-4球
10奪三振の熱投
三浦翼
(2年)



4打数3安打3得点と
声でもプレーでも
チームを引っ張り
ひとつにする頼れる主将
三浦翔(4年)



俊足巧打で
得点にからむ先頭打者
矢部和真
(4年)

準決勝戦で 一戦必笑を実践 決勝戦で 完全燃笑を

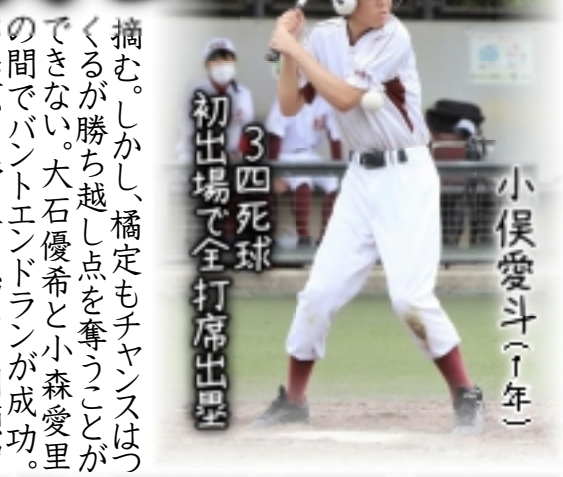


フルスイングと
大きなかけ声で
盛り上げる
大石優希
(3年)

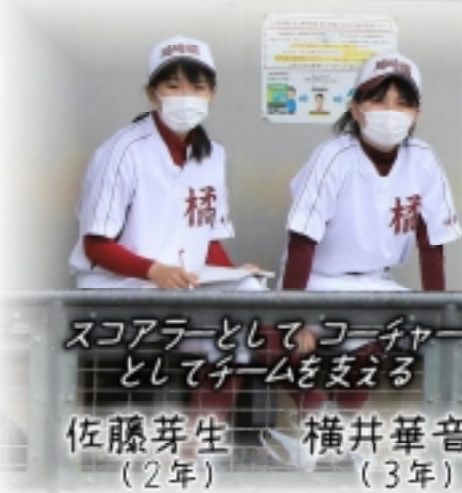
摘む。しかし、橘定もチャンスはつくるが勝ち越し点を奪うことができない。大石優希と小林愛里の間でバントエンドランが成功。高校から野球を始めた間瀬智紘の初ヒット。同じく高校から野球を始め、公式戦初出場の小俣愛斗の3四死球での出塁。堅守と共に打撃でも良いあたりを見せる吉田侑生。積み重ねてきた練習の成果を発揮しながら懸命に攻撃するが1点が奪えない。緊迫した戦いに緊張感も増していった。そして六回裏を迎える。ここでも主将の三浦翔が内野安打で出塁しチャンスをつくり、続く松岡の一打が相手のミスをかきと、すきをつけて三浦翔が勝ち越しのホームを駆け抜ける。松岡が盗塁を決めると、四番三浦翼の三遊間を破るレフト前ヒットでホームにかえり、終盤ついに2点をリードする。

最終回も、エースの力強い投球と松岡の好守備などで出塁を許さない。最後は、この日10個目となる三振を奪い、6対4、厳しい戦いを制し決勝進出を決めた。最後まで仲間を鼓舞し続け、4打数3安打3得点とプレーで仲間に引っ張り、チームを一つにした主将が「一戦必笑」を實踐してみせてくれた試合だった。

(軟式野球部顧問 中島克己)



3四死球
初出場で全打席出塁
小俣愛斗(1年)



スコアラーとして、コーチャーとしてチームを支える
佐藤芽生 (2年) 横井華音 (3年)



公式戦初ヒットそして
ホームへの気迫のヘッド
スライディング
間瀬智紘(1年)



サードでの堅実な守りが
チームのピンチ
を救う
吉田侑生
(1年)



チャンスに快心の
タイムリー2ベースヒット
松岡幸騎弘
(1年)